会長就任にあたって

勝山　憲夫　新日本製鐵（株）代表取締役副社長

この度、第97回通常総会において第50代日本鉄鋼協会会長に選任されました。大変な名誉であると共に、責任の重さを強く感じております。1915年に設立された本会は、我が国における鉄鋼技術の発展に重要な役割を果たし、多大な貢献を行ってまいりました。私自身も、講演大会等での発表や討論を通じて多くを学び、また触発されることによって大いに鍛えられてきたと思っております。微力ではありますが、引き続き会員の皆様のお力をいただき、伝統ある本会の発展に精一杯努力して参りたいと思っております。

近年、我が国の経済はグローバルな荒波に常に晒され、多くの企業が円高や株安の続く中、苦しい戦いを余儀なくされていますが、我が国が持つ世界最先端の鉄鋼技術を継続的に発展させ、世界の鉄鋼技術をリードすることは、我が国の経済の継続的発展を支える原動力になるものと確信しております。

昨年は、未曾有の東日本大震災により、多数の尊い人命と地域社会の喪失、サプライチェインの分断等、歴史上例を見ない大被害を経験しました。製鉄所や大学など鉄鋼関連の施設も大きな被害を受けましたが、関係者の懸命の努力により、比較的早期に生産現場の復旧や仮設校舎の建設などが図れ、今後の本格的な復興が期待されているところです。私は、この大地震・津波による災害、これらに誘発された原発事故を目の当たりにし、改めて我が国の「工学」の再構築が必須の課題であると認識しました。

皆さんご承知の通り、鉄鋼技術は多くの工学分野が融合した総合工学であり、これまでも産学の有機的な連携によって国際競争力を維持してきましたが、これに甘んずることなく、一層気を引き締めて取組んでいく必要があります。本会は、今から百年前、その設立の基本思想に学理と実業の結合を掲げて、総合工学としての鉄鋼技術の基盤強化、競争力強化に切磋琢磨してきました。今後も、この基本思想を引き継ぎ、より進化した産学連携、異分野の学協会との積極的な連携を行うことによって、「工学」の再構築に繋がるような活動を展開したいと思います。

このためにも鉄鋼関連の研究の振興と併せて、大学での工学教育の強化改善や若い技術者の教育は最重要課題であると考えます。本会では既に鉄鋼工学セミナーに集う入社5, 6年目の技術者に大学教育に関する評価を定点的に実施し、大学関係者へフィードバックする取組みも始めており、このような地道な取組みを続けていきたいと思います。

最近の本会の活動は歴代の関係者のご努力により活性化してきております。情報発信機能の強化として、論文誌のフリーアクセス化や電子投稿・審査システムの運用開始を行った結果、海外も含めて論文投稿、掲載数が増大していることは喜ばしい限りです。人材育成に関しては、政府の「人材育成パートナーシップ事業」を継承した「修士学生向け鉄鋼工学概論」や、「企業経営上層部による大学特別講義」等の活動に着手しました。東日本大震災の復興に資するため「震災の復旧・復興に向けたアクションプラン」検討チームを設置し、新たな学術助成を開始しました。更に、材料系の関連学協会が連携して、科学技術振興機構の「ヘテロ構造金属材料プロジェクト」を推進しています。この他にも、科学技術政策への対応、国際交流の促進、社会人の人材育成、広範な他学協会との連携等、行うべきものは多数ありますが、これまでの事業を基に本会がより活性化する方策を継続して考えて行きたいと思います。

本年、本会は国の公益法人制度改革に伴い、本年度内にも一般社団法人となるべく諸手続を進め、法人としては大きな改革となります。また本年8月には鉄鋼会館内へ事務所を移転いたします。

また、本会は2015年に百周年を迎えます。既に「第5版鉄鋼便覧」や「鉄鋼材料と合金元素」の記念出版事業が準備されていますが、これから2015年に向けて、国内の伝統ある学協会のひとつとして、着実に準備を進めることも考えております。

このような大きな節目を迎えるときに会長としての責務を果たすためには会員各位のご協力が不可欠であります。

会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。